

＊ ＊ ボランティアセンターだより ＊ ＊

ボランティア活動には個人宅に出向く活動もあれば、施設での活動もあります。
今回は施設で活動するボランティアさんの思いと、施設側の思いを伺いました。

「施設の果たす地域での役割」

ボランティアを希望する方を受け入れることは、地域に存在する福祉施設の役割の一つです。同時にボランティアさんがどんな思いで施設に来ているか、何を求めて来ているか、そこに思いを巡らすことは欠かせないことです。

単に無償で労働力を提供してくれる人としか施設側がとらえていなければ、それはボランティアさんの忍耐の上に成り立つ関係でしかありません。

しかし、施設側が自信をもってお金では買えない満足を提供することができれば、施設とボランティアさんとの対等な関係が成立するのです。それを見える形でボランティアさんに返していくように心がけています。

(福祉作業所ゆうゆう※1 寺澤祐輔)



「今、自分ができること」

6月のある日いきいきセンター金沢にふと立ち寄り、ボランティア登録。67歳で取得した調理師の資格を以って「金沢福祉センター※2」へ昼食作りに。月2回活動し半年が過ぎました。

ボランティア活動を始めて、若い職員さん達がおおらかに利用者さんに接している様子に感心しました。また、利用者さんも昼食時率先して箸を並べたり、食器を片づけたり、自分ができることは自分でやるという姿勢に、受け身ばかりではない彼らの存在を強く感じました。

利用者さん達一人ひとり、無二の心の世界を持っていること。邪気のない透きとおる温かさ。ほっとする雰囲気の中、一緒に食事をして帰ってくる。身構えることなく、このまま可能な限り続けたい。ちなみに私も週3回透析に通う障がい者です。

(ボランティア 永井淑子)



※1「福祉作業所ゆうゆう」…NPO法人「こんちえと」が運営する福祉事業所。クッキーなど焼き菓子の製造を行っている。
※2「金沢福祉センター」…NPO法人「こんちえと」が運営する障害者地域活動ホーム。ポスティング、お菓子作り、アルミ缶つぶしなどを行っている。

善意銀行寄託者 (平成28年6月11日～平成28年10月25日) 以下の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)
明るい社会づくり運動金沢区協議会、N・T健康体操、日本発条労働組合横浜支部、泥亀町内会、横浜労働者福祉協議会、なぎさ支部、金沢区吟剣詩舞道連盟、金沢区佛教会、他匿名6件 計 337,951 円、物品寄付(着物)

平成28年12月1日発行

「福祉かなざわ」編集委員会
社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会

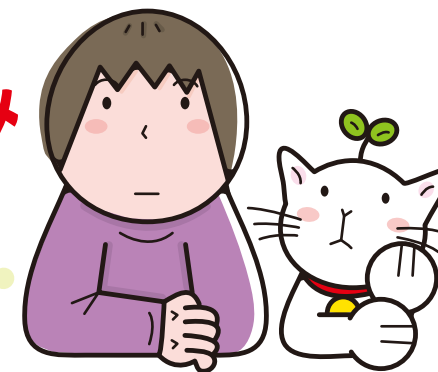
〒236-0021 横浜市金沢区泥亀1-21-5
Tel 788-6080 Fax 784-9011
HP <http://www.kanazawa-shakyo.jp/>
Mail info@kanazawa-shakyo.jp

※「福祉かなざわ」のバックナンバーをご希望の方は、金沢区社協までお問い合わせください。

特集

まちには
気にかけてほしい人 がいいます

支える仕組み
はあるのかな？

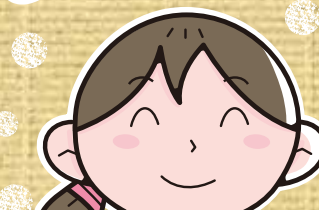


できること
はあるのかな？



地域で
ともに暮らす人を支える

見守る
認知症の人を



認知症
サポーター



あんしん
キーパー

見守る
障がいのある人を

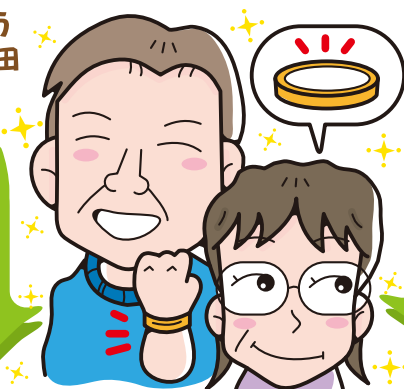
あなたも身近
な応援者になっ
てね！



地域で見守る「応援者」認知症サポーター

認知症の正しい理解を広めようと活動する「ロバの会」の岡田明夫さん

認知症の人など様子が気になる人には、挨拶や会話はゆっくりと笑顔でしてみてください。安心できる接し方や声掛けを心がけると相手は落ち着きます。



「かなざわささえ隊」で、キャラバン・メイトとして活躍する山中和子さん

若い世代にも認知症の人はいます。認知症になっても本人や家族が不安にならないよう、地域で、そして、社会全体で見守る時代だと思います。

認知症の人の見守りは「普段から気にかけること」

厚生労働省の推計※によれば、2025年、認知症の人は700万人前後となり、65歳以上の5人に1人が認知症になる計算です。高齢化とともに75歳以上の人が増える傾向にある金沢区でも、認知症はより身近になっていくでしょう。 ※2015年1月発表
一人でも多くの人で支えるために

講座を受けて認知症を正しく理解し、地域の見守り役として欠かせないのが認知症サポーター。その養成に関わっている山田正之さんは「認知症の見守りや介護は、家族だけではどうにもならない面があるから、

一人でも多くの人で支えることが大事」と言います。認知症の母親と長年暮らす山田さんは、近所の人たちが母を受け入れてくれるようになって気分が楽になった経験をもとに「理解者が周りにいるのは心強い、ぜひ多くの方がサポーターになってほしい」と続けました。「サポーター養成講座はどなたでも受けることができます。最近では商業施設で接客などを行う従業員を対象にした講座が増えました」と話すのは、介護をきっかけに地域でボランティアを始め、キャラバン・メイトになった山中和子さん。認知症への理解者が増えれば、周りと協力して行動することもできると、サポーターの活躍に期待を寄せます。

親の介護経験から認知症の人との接し方に詳しい「ロバの会」の山田正之さん



同じ場所を行ったり来たりしていた人を見かけたので声をかけ、並んで座ってしばらく待たせたことがあります。家族が探していることもあるので、そばにいただけでも見守りになります。

用事で先を急ぐ時に認知症かなと思う人を見かけたら、周りの人に声をかけて見守りをお願いし、場合によっては地域ケアプラザなどに連絡してもらっています。

●**認知症サポーター** 認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を見守る応援者

●**サポーターになるには** 地域や学校、企業などで開く認知症サポーター養成講座を受ける。講師は特定の研修を受けたキャラバン・メイトが務める。受講後、サポーターであることを示すオレンジリングが渡される。

●**問合せ** お近くの地域ケアプラザか区社協、金沢区高齢・障害支援課へ

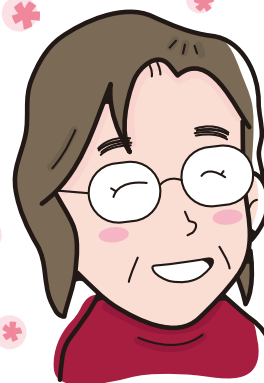
認知症の人… 障がいのある人… 「その人の近く」にいて、 「こころを寄せる人」 になろう

その人を「いつも身近に感じている」 あんしんキーパー

発達障害の20代男性のあんしんキーパーをしている内田富栄さん。きっかけは、顔見知りだった男性の親から「息子は災害時の支援が必要」と告げられたことでした。

あんしんキーパーとは、その人を「いつも身近に感じている」存在、と内田さんは表現します。その人の障がいを理解し、接し方・気持ちの伝え方をいろいろと工夫し、「何かあれば駆けつける」ことを心がけていると言います。生活が順調なら「特に何もしない」でいます。

さまざまな障がいの特徴を知っておくことも見守りになると、あんしんキーパーの内田富栄さん



あんしんキーパーとして日々の挨拶をして、その人を気にかけるだけでいいです。見守っている人がいることは、その人の家族にも伝わっていくと思います。

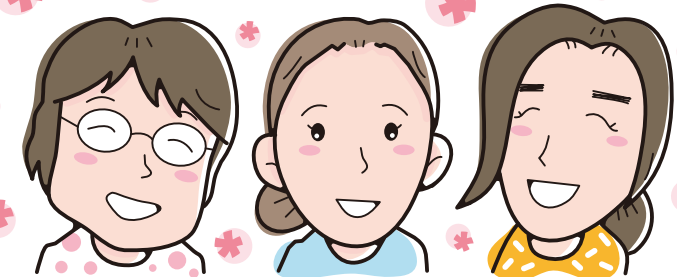
障がいのある人・その家族の 支えとなる あんしんキーパー

障がいのある人とその家族が、住みなれた地域で安心して暮らしていけるようにと始まった横浜市障害者後見の支援制度。身近な所で見守ってくれて心強いあんしんキーパーが、自分たちと同じまちに暮らしている安心感は大きいものです。

障がいのある人の日中の活動先、制度を利用している人の口コミなどを通じて、制度について興味を持つ人からの問合せが多くなったと言うのは、支援制度の案内をしている金沢区障害者後見の支援室・帆海（ほなみ）の岩永美恵子さん。キーパーを増やして地域での見守りを充実させたい、と帆海の職員全員で日々取り組んでいます。

あんしんキーパーを増やし、地域に制度を広めている帆海の担当職員・岩永美恵子さんと、利用者の日常生活や暮らしの場を定期的に訪問し、相談を受けるあんしんサポーター（支援室職員）の小川訓子さんと武田淳子さん

あんしんキーパーになれるかしら・なってみよう。後見の支援制度を知りたい・利用したい。どちらも、はじめの一步は私たちにお気軽にご相談ください。



●あんしんキーパー

各区に設置された障害者後見の支援室にキーパーとして登録し、制度を利用する人に何かあった時などに訪問して支援室へ連絡する。

●**問合せ** 金沢区障害者後見の支援室 帆海（ほなみ）

電話 788-2114 fax 788-2160 月曜～金曜 9:00～17:00

※土日・祝日、年末年始は休み。能見台通 21-23 アイカビル 1階

「認知症や障がいのある人が近くに暮らしている」と知っている人が周りにいるというだけでも、本人やその家族は、とても心強いと思います。